

ザンビア・シナヅングウェ地区における NGO の活動と食糧安全保障プログラム

松村圭一郎

京都大学大学院人間・環境学研究科

<2009 年度の調査概要と研究成果の要約>

2009 年度は、8 月～9 月にザンビアの南部州・シナヅングウェ地区において、NGO の食糧安全保障プログラムについて、おもに World Vision (WV) と Kaluli Development Foundation (KDF) の活動を中心に資料収集と現地調査を行い、取得データを分析した。

① WV の活動に関する調査

今年度の WV に関する調査は、リリーフを中心とした‘Humanitarian and Emergency Affair (HEA)’ オフィスの食糧援助にもとづく活動に注目した。シナヅングウェ地区において、WV HEA は、これまで‘Consortium of Southern Africa Food Emergence (C-SAFE) (2006 年 1 月から 9 月まで)’と‘Consortium for Food Security Agricultural, AIDS Resilience and Marketing (C-FAARM)’ (2007 年 9 月から 2010 年 8 月までを予定) というふたつのプログラムの実施を担ってきた。ふたつのプログラムに関する資料を比較すると、C-SAFE が 2005/06 年の干ばつ後の救済活動を中心に地区の広範囲において大規模な食糧援助を実施してきたのに対して、C-FAARM が、より開発に重心をおいたプロジェクトへの参加を前提とした食糧配布 (‘Food for Asset’) と農民に栽培作物の種子を配布して農業の生産性向上を目指す‘Seed Distribution/Seed Monitoring’を柱とし、プログラムの実施拠点も C-SAFE から半減し、規模が縮小していることがわかった。アクセスの問題などから、Chiyabi や Siameja といった遠隔地がプログラムから除外され、道路網の整備された地域に限定した活動になっており、住民へのインタビューからはその実施地域の少なさを問題視する声も聞かれた。

② KDF の活動に関する調査

KDF での資料収集と現地調査にもとづき、食糧安全保障に関する活動 (たとえばザンビア全土で実施され、KDF が地区での実施主体となっている‘Food Security Pack’など) について分析した。また、KDF が地区での実施を担っている政府の食糧援助について、前年度に参与観察した食糧配布の記録と今年度に収集した資料にもとづき、その活動内容や運営の問題点について整理した。KDF のスタッフへのインタビューなどからは、政府による運営資金の支払いが遅延したり、食糧運搬用のトラックの故障などから、たびたび各サテライトへの食糧配布が遅れており、予定された期間内での速やかな配布ができていない実態が明らかになった。

<今後の調査計画>

2010 年度は、これまでの調査結果をふまえながら、さらに食糧援助がローカル社会にどのようなインパクトをもたらしているかを現地調査にもとづいてあきらかにする。とくに、食糧援助の配付が村人にどのように受け止められ、どういう対応がなされているのか、それらが農村社会のレジリエンスといかなる関係にあるのか、注目して調査を進めたい。